

ハナヲキミ
涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展 出品リスト

2018年8月11日(土・祝)～9月24日(月・休)



前期:8月11日(土・祝)～9月2日(日) 後期:9月4日(火)～9月24日(月・休)

作品No.	展示期間	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
I 詩集の彼方へ						
1-1-1～2		吉増剛造	日記(1969-1970年)	1969-70年	ノート	作家蔵
1-1-3		吉増剛造	『三田詩人』	1960年代	雑誌	作家蔵
1-1-4		吉増剛造	『ドラムカン』	1960年代	雑誌	作家蔵
1-1-6		岡田隆彦	瀧口修造宛葉書(1966.1.11)	1966年	葉書	慶應義塾大学アート・センター
1-1-7		吉増剛造	「闇」初出誌書き込み 『日本きやらばん』第18集	1967年	雑誌	作家蔵
1-1-8		吉増剛造	「古代天文台」初出誌書き込み 『現代詩手帖』1970年2月号	1970年	雑誌	作家蔵
1-1-10		中西夏之	コンパクト・オブジェ	1962年	ミクストメディア	足利市立美術館(浅川コレクション)
1-1-11		中西夏之	コンパクト・オブジェ	1962年	ミクストメディア	足利市立美術館(浅川コレクション)
1-1-12		中西夏之	コンパクト・オブジェ	1962年	ミクストメディア	足利市立美術館(浅川コレクション)
1-1-13		加納光於	吉増剛造詩集『わが悪魔穢い』のために	1974年	レリーフプリント・紙	千葉県美術館
1-1-14		加納光於	桃色の魚座に沿って-吉増剛造のために-	1974年	木、金属、鉛筆、蜂	千葉県美術館
1-1-15		赤瀬川原平	MY POESY 4 吉増剛造「燭立」のために(『婦人公論』1969年4月号掲載)	1969年	鉛筆・紙	個人蔵
1-1-16		中平卓馬	無題	1969年頃	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-1-17		中平卓馬	無題	1968年頃	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-1-18		中平卓馬	無題	1968-70年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-1-19		森山大道	東京タワーから	1968-71年	ゼラチン・シルバープリント	東京工芸大学 写大ギャラリー
1-1-20		森山大道	土方巽	1960年代	ゼラチン・シルバープリント	東京工芸大学 写大ギャラリー
1-1-21		森山大道	まずたしからしさの世界をすてる	1960年代	ゼラチン・シルバープリント	東京工芸大学 写大ギャラリー
1-1-22		ダイアン・アーバス	リビングルームのクリスマスツリー	1963年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-1-23		ダイアン・アーバス	一卵性双生児	1967年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-1-24		吉増剛造	「王國」原稿	1972年	原稿	作家蔵
1-2-1		吉増剛造	「八月の夕暮れ、一角獣よ」原稿	1970年代	原稿	作家蔵
1-2-2		吉増剛造	『太陽の川』掲載写真	1970年代	インクジェット・プリント	作家蔵
1-2-3		若林奮	無題(L.W.葉ツバの箱)	1984-93年	銅、木、針金など	個人蔵
1-2-4		若林奮	LIVRE OBJECT	1971年	鉄、本、吉増剛造詩集『頭脳の塔』(青地社1971年)ほか	個人蔵
1-2-5		若林奮	ドローイング1984	1984年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-6		若林奮	ドローイング1999.2.4	1999年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-7		若林奮	ドローイング1999.8.1	1999年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-8		若林奮	ドローイング2000.7.16	2000年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-9		若林奮	ドローイング2003.5.4	2003年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-10		若林奮	ドローイング1997.8.27(『武蔵野美術』No106(武蔵野美術大学出版部)挿画-緑の森の一角獣-旅 その3に掲載)	1997年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-11		若林奮	ドローイング1998.6.2(『武蔵野美術』No109(武蔵野美術大学出版部)挿画-緑の森の一角獣-旅 その6に掲載)	1998年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-12		若林奮	ドローイング1998.12.6(『武蔵野美術』No111(武蔵野美術大学出版部)挿画-緑の森の一角獣-旅 その8に掲載)	1999年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-13		若林奮	ドローイング1999.3(『武蔵野美術』No112(武蔵野美術大学出版部)挿画「道路の遠近を忘れたり」-地図 その11に掲載)	1999年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-14		若林奮	ドローイング2000.4.23(『武蔵野美術』No117(武蔵野美術大学出版部)挿画「道路の遠近を忘れたり」その6に掲載)	2000年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO
1-2-15		若林奮	ドローイング2000.7.23(『武蔵野美術』No118(武蔵野美術大学出版部)挿画「道路の遠近を忘れたり」その7に掲載)	2000年	鉛筆、色鉛筆・紙	WAKABAYASHI STUDIO

作品No.	展示期間	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
1-2-16		吉増剛造	「道路(ミチ)の遠近を忘れたり」原稿	2000年	原稿	作家蔵
1-2-17	※a	吉増剛造	銅板打刻作品	1990-2000年代	銅板打刻	作家蔵
1-3-1		吉増剛造	「絵馬、a thousand steps」原稿	1970年代	原稿	個人蔵
1-3-2		吉増剛造	恐山撮影写真	1977年頃	インクジェット・プリント	作家蔵
1-3-3		北村透谷	石坂美那宛書簡(1887年9月3日)複製	原本:1887年	書簡	日本近代文学館
1-3-4		吉増剛造	『大病院脇に聳えたつ一本の巨樹への手紙』初出誌書き込み	1980年代	雑誌	作家蔵
1-4-1		吉増剛造	「オシリス、石ノ神」原稿	1982年	原稿	作家蔵
1-4-2		吉増剛造	「抹消された「夕闇ノ月」の聲と光ル魚」原稿	1980年代	原稿	作家蔵
1-4-3		吉増剛造	「世田谷ノ繁ミの奥へ」原稿	1980年代	原稿	作家蔵
1-4-4		吉増剛造	「奮起せよ、アムンゼン」校正原稿	1980年代	原稿	作家蔵
1-4-5		折口信夫	『死者の書』初出誌自装本	1939年	自装本	國學院大學 折口博士記念古代研究所
1-4-7		折口信夫	稿本『逍空萬葉集』原稿	1940年頃	原稿	國學院大學 折口博士記念古代研究所
1-4-9	前期	折口信夫	歌稿「八夕路」	不詳	紙本墨書	慶應義塾図書館
1-4-10	後期	折口信夫	歌稿「わがはらから」	不詳	紙本墨書	慶應義塾図書館
1-4-12		柳田國男	松山からの田山花袋宛絵葉書(明治41年7月31日)	1908年	葉書	田山花袋記念文学館
1-4-13		柳田國男	沖縄県那覇からの田山花袋宛書簡(大正10年1月16日)	1921年	書簡	田山花袋記念文学館
1-4-14		柳田國男	宮古島からの田山花袋宛絵葉書(大正10年1月21日)	1921年	葉書	田山花袋記念文学館
1-4-15	前期	中上健次	「熊野集4 花郎」原稿	1980年	原稿	個人蔵
1-4-16	前期	中上健次	「火まつり」原稿	1985年	原稿	個人蔵
1-4-17	後期	中上健次	「軽蔑」原稿	1991年	原稿	個人蔵
1-4-18	後期	中上健次	「讃歌」原稿	1987年	原稿	個人蔵
1-4-19		吉増剛造	「歌の契りの深さと野生-折口信夫Ⅱ」原稿	2000年代前半	原稿	作家蔵
1-4-20		吉増剛造	「折口信夫の歩行(一)母の座」原稿	1990年代後半	原稿	作家蔵
1-4-21		吉増剛造	「柳田國男ノート」原稿	1990年代前半	原稿	作家蔵
1-4-22		吉増剛造	「浮島の森を、鶴音手、……」原稿	1998年	原稿	作家蔵
1-4-23		吉増剛造	「メモ(2006.12.1)-熊野」原稿	2006年	原稿	作家蔵
1-5-1		吉増剛造	「螺旋歌」原稿	1980年代	原稿	作家蔵
1-5-2		吉増剛造	「螺旋歌」校正稿	1980年代	原稿	作家蔵
1-6-1		吉増剛造	「庭——黒い惑星の遠い引きの道」原稿	1990年	原稿	作家蔵
1-6-2		荒木経惟	センチメンタルな旅	1971年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-6-3		荒木経惟	センチメンタルな旅	1971年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-6-4		荒木経惟	センチメンタルな旅	1971年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-6-5		荒木経惟	センチメンタルな旅	1971年	ゼラチン・シルバープリント	東京都写真美術館
1-6-10		吉増剛造	「石狩シーツ」原稿	1990年代	原稿	北海道立文学館
1-7-1		吉増剛造	「木の「妖精」の羽衣が、……」原稿	1995年	原稿	作家蔵
1-8-1		吉増剛造	「写真日記」原稿	1998年	原稿	作家蔵
1-8-2		吉増剛造	「旅のまんたら絵」原稿	1999-2000年	原稿	作家蔵
1-8-3		吉増剛造	「The Other Voice」原稿	1999年	原稿	作家蔵
1-8-7		吉増剛造	「アイルランド、刹那の眼」原稿	2005年	原稿	作家蔵
1-8-12		吉増剛造	「メモ-高銀先生のこと」原稿	2007年	原稿	作家蔵
1-9-5		大平(島尾)ミホ	島尾敏雄宛手紙(1945.8.13)	1945年	書簡	かごしま近代文学館
1-9-6		島尾敏雄	大平(島尾)ミホ宛手紙(1945.8.14)	1945年	書簡	かごしま近代文学館
1-9-7		島尾敏雄	「その夜(冒頭:命をかけて~)草稿	不詳	原稿	かごしま近代文学館
1-9-8		島尾ミホ	呑之浦にて 敏雄の後姿	1979年	写真	かごしま近代文学館
1-9-9		島尾敏雄	岩に登るミホ	1979年	写真	かごしま近代文学館
1-9-10		島尾敏雄	岩礁に海を背に立つミホ	1979年	写真	かごしま近代文学館
1-9-11		島尾敏雄	呑之浦にて 白い大きな岩	1979年	写真	かごしま近代文学館
1-9-12		島尾敏雄	砂浜の巢穴	1979年	写真	かごしま近代文学館
1-9-17		吉増剛造	「漢字ノ紙ノ、爆けて燃える、音がして、黙って居たのが、ブラジルだった」原稿	2006年	原稿	作家蔵
1-9-19		吉増剛造	「島尾敏雄 研究ノート」原稿	1993年	原稿	作家蔵
1-9-20		吉増剛造	「飛葉一棘が、人生の小川をぎっしりと流れている」原稿	2007年	原稿	作家蔵
1-9-21		吉増剛造	「光の棘」原稿	2004年	原稿	作家蔵
1-10-1		吉増剛造	裸のメモ(与謝蕪村)原稿	2004年	原稿	作家蔵
1-10-2		吉増剛造	裸のメモ-2007.10.21(萩原朔太郎)原稿	2007年	原稿	作家蔵
1-10-3	※a	吉増剛造	裸のメモ(芥川龍之介フィルム kappa)原稿ほか	2008年/2000年代	原稿	作家蔵

作品No.	展示期間	作家名	作品名	制作年	技法・素材	所蔵
1-10-4	※a	吉増剛造	「詩の傍らで」原稿	2012年	原稿	作家蔵
1-10-5	※a	吉増剛造	『怪物君』原稿	2015年頃	原稿	作家蔵
II 写真を旅する						
2-1		吉増剛造	モノクロ写真	1970年代頃	インクジェット・プリント	作家蔵
2-2		吉増剛造	カラー写真	1980-90年代頃	インクジェット・プリント	作家蔵
2-3		吉増剛造	『何処にもない木』(詩論社、2006年)掲載写真作品	1990年代	インクジェット・プリント	作家蔵
2-4		吉増剛造	多重露光写真	1990-2000年代	インクジェット・プリント/A~J:発色現像方式 印画	作家蔵
III 響かせる手						
3-1		吉増剛造	『根源乃手ノ根源乃(亡露ノ手)』原稿	2010年代	原稿	作家蔵
3-2		吉本隆明	『日時計篇』原稿	1950年	原稿	日本近代文学館
3-3		西脇順三郎	漢語ギリシア語ノート	1967年	ノート	慶應義塾大学アート・センター
3-4		西脇順三郎	主として Greek 語の話	1967年	ノート	慶應義塾大学アート・センター
3-5		瀧口修造	デカルコマニー	1962年	デカルコマニー・紙	足利市立美術館(浅川コレクション)
3-6		芥川龍之介	水虎晩帰図	不詳	紙本墨書	日本近代文学館
3-9	※b	南方熊楠	土宜法龍熊楠書簡(熊楠マンダラ)複製	原本:1903年	紙本墨書	南方熊楠顕彰館
3-10	8/11~26	萩原朔太郎	「手」原稿	1923年頃	原稿	前橋市文学館
3-11	8/28~9/9	萩原朔太郎	「竹」原稿	1923年頃	原稿	前橋市文学館
3-12	9/11~24	萩原朔太郎	「蝶を夢む」原稿	1923年頃	原稿	前橋市文学館
3-13	8/11~26 (8/28~原寸 大パネル)	萩原朔太郎	萩原榮次宛書簡(大正3年11月27日)	1914年	書簡	前橋市文学館
3-14		萩原朔太郎	「郷愁の詩人 与謝蕪村」原稿	1933年頃	原稿	前橋市文学館
3-15	8/11~26	萩原朔太郎	自筆楽譜「機織る乙女」	大正時代	原稿	前橋市文学館
3-15-2	8/28~9/24	萩原朔太郎	自筆楽譜「機織る乙女」(レプリカ)		レプリカ	前橋市文学館
3-17	8/28~9/9	萩原朔太郎	薄暮	不詳	写真	前橋市文学館
3-18	廃園:8/11 ~26 寂しさ:8/28 ~9/9	萩原朔太郎	廃園・寂しさ	廃園:1913年・寂 しさ:不詳	写真	前橋市文学館
3-19	8/28~9/9	萩原朔太郎	初冬	不詳	写真	前橋市文学館
3-20	8/11~26	萩原朔太郎	村路	大正時代	写真	前橋市文学館
3-21	9/11~24	萩原朔太郎	郷愁	大正時代	写真	前橋市文学館
3-24		石川啄木	詩稿ノート「はてしなき議論の後」	1911年	ノート	日本近代文学館
3-25		川端康成	「初空に鶴千羽舞ふ幻の」色紙	不詳	紙本墨書	龍泉寺美術館
3-26		川合小梅	「小梅日記」	1849-85年	原稿	和歌山県立図書館
3-27		松尾芭蕉	「世にふるも」句文懐紙	1681-84年	紙本墨書	山寺芭蕉記念館
3-28		松尾芭蕉	「ちりうせぬ」句文懐紙	江戸時代	紙本墨書	山寺芭蕉記念館
3-30		与謝蕪村	山水図	1782年	絹本着色	個人蔵
3-31		浦上玉堂	山林読書図	1810年頃	紙本墨書淡彩	福島県立博物館
3-34		浦上玉堂	草書一行書「世外交情唯此而已須有大観眼」	1790年代頃	紙本墨書	千葉市美術館(西谷コレクション)
3-36		浦上玉堂	蓮峯雪花図	1808-11年頃	紙本墨書	千葉市美術館(西谷コレクション)
3-37		良寛	今日乞食逢驟雨	1820年頃	紙本墨書	良寛記念館
3-38		良寛	あさづくひ	1828年頃	紙本墨書	良寛記念館
3-39		吉増剛造	火ノ刺繍	2017年	原稿	作家蔵
3-41		吉増剛造	「宇宙的な心の細さの人②-西脇順三郎」原稿	2000年代前半	原稿	作家蔵
3-42		吉増剛造	「樹の河(瀧口修造)」原稿	2005年	原稿	作家蔵
3-43		吉増剛造	「無言の仕草へ I, II-石川啄木」原稿	2000年代前半	原稿	作家蔵
3-45		吉増剛造	「メモ-千々にくだけて 2006.11.10(松尾芭蕉)」原稿	2006年	原稿	作家蔵
3-46		吉増剛造	「良寛さん、鉢の子、ぼな一る」原稿	2000年	原稿	作家蔵
特別出陳	※b	吉増剛造	詩作の旅メモ	1988年	原稿	作家蔵

※ 会期中に展示替えがあります。

※ 作品保護等により、展示作品や展示期間を変更する場合があります。

※ ※aは地下1階展示室に、※bは2階展示室に展示してあります。

☆☆☆ 会場に設置されているレタリングは、吉増剛造氏の詩から抄出した章句です。 ☆☆☆

■螺旋階段の詩 「八月の夕暮、一角獣よ」より（出典『草書で書かれた、川』 思潮社 1977年）

星の引力を感じて、ロッドアンテナをのぼす、わたしは一角獣

はた すいへん まがたま
機の糸、水辺の葦、尖端が、囁く勾玉のような、わたしは一角獣

■地下1階 廊下天井の詩 「オシリス、石ノ神」より（出典『オシリス、石ノ神』 思潮社 1984年）

私は語り手なのだろうか。座席ニ坐ッテ、(二上山駅ノ木製ベンチに、腰掛けていた)私？

(あるいは誰かが) 坐っている姿は誰？

■地下1階 スライドショーの詩 「長篇詩 ごろごろ」より（出典『長篇詩 ごろごろ』 毎日新聞社 2004年）

ホ、トン、ド、……アッ、ツラ、ッシ(アラシ)ノッ、コエ(声)ヲ、キッ、ツク、春ノ、アッ、ツラ、ッシ(亜、裸、死、……)、
ツノ、ミナッ、トッ、マッッチ(港、町)、アッ、ツマ、ミ(アマミ)ッ、サ、ツン、プッ、ツラッ、ザ=バ(サンブラザ)、……
ニッ、モド(戻)ッ、ツツ、ツテ(ティッ、ティッ、ティッ)、コ、ノッ、コ、ノッ、ロ(老)ッ、オキッ、ツナッ(翁)、ウッ、
ウッ、五〇ッ二、号ッ、高ッチ、ツ穂ノッ、ツシ、シッ、ツツ(室)ニッ、ニッ、トウ、メエッ、ティッ(泊一トメッ)ッ、ティ
ッ、ユッ、ツミ(ツメ)、チッ、チッ(血)ノッ、ノッ、トウ、ノッ、トウ、カミッ(紙)ノッ、チッ(千)ヲオ、タ、(叩)ッ、
クウ、薄スイッ、ティ(手)、ティ(手)ガッ、キッ、コッ、ツエ、ツティ、……

紙(かみ)ノ、ち(千)ヲ、たゝく、ティ(手)ガ、……

カッ、ラッ、ダ(カラダ)ッ、チッ、サイッ、ヾッ、……、コッ、レッ、ドッ、ツコ、カラ、ハイッ、ツティ、キッ、ツタ、ノッ
カッ「無音子音」-「洲」の略体=ソッ、ツカ。コッ、ツコ、ニッモ、「ナージ(長瀉、名瀬ガッ)」ノ、チツツッ、チツツッ、トウ、
カミッ(紙)ノッ、チッ(千)ヲウ、タ、ツクウ、ティ(手)、ノッ、カ(香)ッ、ツガ、シッタ、……

ティ(手)、ノッ、カ(香)ッ、ツガ

「音声破擦音」-「チ」、ノ、アッ、ツラ、ッ、ッ、シチ、……。 「無声子声」-

ヾッ、ノ、アッ、ツラ、シチ、

—hands and hands which are patting shin thousands of papers with their hands.

エミリッ、ーッ、ノ、「子」ノナイ、ココロノッ、エミリー、ノ、「子」ノ、「i」ノ、スッガ、タッ、ディッ、アッタ、ダッタ
アル、ヒッ、ワッ、ワッ! トニーッ、タニッ(谷)、ノッ、ソロバン(算盤)ッ、ノッ、ジ、ヤッ、ツズ、ズッーッ、チャッ
二〇〇四年四月二日、春ノ嵐ノ奄美ノ、名瀬ニ戻ッテ、風ノ音ヲ、キーティ、イテッ、……

マヤチャン

詩ノ汐ノ穴

■地下1階 スライドショーの足元の詩(赤い文字)「オシリス、石ノ神」より（出典『オシリス、石ノ神』 思潮社 1984年）

モウイイノデス、私共ノ放蕩息子ガ……、

薄イムラサキノブラウスダッタ。

美しい山。

木ガ折レテ、立ち上ッテイタ。

ソノ周リヲ、蛇ガ廻ッテイタ。石ヲ二個、腹ニノンデ、静カニ、蛇ガ廻ッテイタ。